

# 崎 定 長 検

## 一級 さん

Vol.30

### 長崎検定と「温故創新」

おおくし 大串 秀人さん

長崎歴史文化観光検定の最難関を突破した1級ホルダー。その卓越した識見には、なにやら一家言ありそうです。ざつくばらんに寄稿願いました。

長い市役所勤務の間に、都市計画や平和推進の分野で長崎のまちの形成や復興に触れ、また「旅」博覧会をはじめ各種記念イベント、国際会議などの企画や運営にも携わる機会がありました。これらの事業では、常に長崎らしさや長崎の魅力を発信する必要もあり、観光や文化行政に直接携わらなかつたものの、自分自身では地元長崎に対する知識は少なからずあるものと思っていました。

定年を数年後に控えた時に「長崎検定」を知り、良い教材であり、改めて総合的に勉強してみようと思い立ちました。2級受験から順調なスタートで、1級も安易に考えたのが大間違い。試験間近にならないと気合が入らない性分で準備不足、問題との相性が合わず、失敗続き。合格ラインにあと1問足りない時や、問題を見たとき早々に諦めることもありました。別にいつまでに合格しなければ困るということもなく、生涯学習として続ければそのうち経験を積んで何とかなるだろうと考えたのがまたまた大間違い。知識の集積と試験の能力とは別物だと気付いたので。加齢とともに、知識は増えているのに試験に臨むと、よく知っているても固有名詞、特に人の名前が出てこない！中高年の場合、長く勉強しても合格に近付くとは

限らないのです。その意味で昨年運よく到達できたのは、ぎりぎりセーフかとホッとしました。

「長崎検定」の学習を通じて、これまで全く知らなかつたことも多く、長崎には何と豊富な資源があるのだろうと、改めて感じました。と同時に、長崎の魅力アップと活性化に生かせる種がまだまだあるのではないかとも思いました。「長崎は昔の遺産を食い潰している」と言われて久しいのですが、ここにかけているんなものの価値が見直されつつあるのではないのでしょうか。最近期待が高まってきた「近代化産業遺産」や「キリスト教遺産」、「夜景」も元々あつたもの、昔はもつとあつたものです。街の発展に邪魔なものと思われていた古い建物や街並み、石垣や古木、溝までもがそれぞれの歴史とともに見直されつつあります。また、人物にしても、これまであまり語られることもなかつたフルベッキや梅屋庄吉、平野富二など最近になって研究され業績が評価されはじめた人々も少なからずいます。長崎では、あつて当たり前でその価値に自ら気付かないことが多いのです。長崎では当たり前前でも、外から見ればお宝のようなものもつとあるのではないのでしょうか。

今は古いものが新しい時代。長崎の原点である

港と街の形成過程、海外交流史と遺産、町人文化、平和の発信を大切に、外（世界）の風を感じながら、「ものがたりづくり」と更に「ものづくり」を目指す必要があります。

未来は過去からの繋がりであり、種があるところからしか芽は出ない。長崎の宝を知り、その種を育てて時代に合った全く新しい文化を創ることができると思っています。

「長崎検定」1級取得にもたまたましている間に、年々「長崎検定」に対する世間の関心と受験者数が減っていないかと危惧しています。御当地検定の流行や個人的な趣味に終わることなく、まちづくり、ものづくりに関わる多くの人々に発想の基盤づくりとして活用してもらいたいと思う次第です。



#### 【プロフィール】

1950年長崎生まれ。38年間の長崎市役所勤務を経て、現在、長崎伝習所事務局長。NPO ナガサキピーススフィア貝の火運動、長崎ハンドベルコミュニティ、ちびっこくん実行委員会など市民団体でも活動している。